

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	濱野健
職 位	短時間研究員
<p>研究概要</p> <p>本年度は、2011 年度に提出した博士論文の内容をまとめ直し、投稿論文として出版する作業を実施した。それと並行して、本年から新たに取り組み始めた研究課題の「『ハーグ条約』問題の国際社会学的研究の意義:女性結婚移住者と構造的な社会格差への視点」について、資料収集、予備調査及び現時点での成果報告などを国際学会等で実施した。(研究活動の詳細については、下記の業績リストを参照)</p> <p>GCOE の活動には、本年度 2012 年からの参加であったが、「2012 年度次世代出版プロジェクト」に応募し、課題「交差する「親密圏」・つなぎ合う「公共圏」としてのフィールド:調査者と協力者、異なるポジショナリティ間の交渉の場からの考察」(研究期間 2012 年 5 月・2013 年 3 月、助成金額 30 万円)として採択された。プロジェクトメンバーは申請者を含めて 9 名、本年度は 4 回の研究会を実施した。</p> <p>また、本年度は松下幸之助記念財団より、平成 24 年度の研究助成を受けた。研究課題は「国際結婚の破綻とグローバルな家族の離散を巡る諸問題—日本人女性の国際的な子どもの「連れ去り」の事例研究」(研究機関 2012 年 10 月・2013 年 9 月、助成金額 50 万円。)であり、2013 年度下記の国際調査も含めて、現在調査を継続している。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>論文（2031 年度掲載予定のものも含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> Hamano, Takeshi. 'Forming <i>Fictive Kin</i> in Fieldwork: An Experience of Reflexive Fieldwork with Japanese Women Marriage Migrants in Australia', <i>Journal of Intimate and Public Spheres</i>. 3. 2013,(印刷中) 濱野健, 「日本の「国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約(ハーグ条約)」批准をめぐる報道内容のメディア・フレーム分析:国内の全国紙掲載記事を対象として、『国際論集』第 13 号, 2013 年, (印刷中). 濱野健. 「婚姻移住の増加と郊外化する「ホーム」:オーストラリア、西シドニー 	

地域における日本人女性婚姻移住者の事例より』『オーストラリア研究』第 26 号, 2013, pp.49-64.

4. 濱野健. 「オーストラリアへの婚姻移住:国際結婚による永住ビザ申請者数の把握と日本人女性婚姻移住者への個別インタビュー事例から」『オーストラリア研究紀要』, 第 38 号, 2012 年, (印刷中)

報告書

1. 濱野健. 「オーストラリアにおける日系エスニック・メディアとその分析の重要性 -「保坂コレクション」の分類・整理状況と、その後の成果に関する報告」、『平成 24 年度科学研究費補助金基盤研究B「多文化社会における新たな公共性と文化的市民権(研究代表者 毛利嘉孝)」, 2013,(刊行予定).
2. 濱野健. 「ジェンダー化された親密圏の可能性と限界: 現代の日本人女性婚姻移住者の事例より」, 2012 年度 GCOE 次世代研究出版プロジェクト「『身体化』される親密圏・公共圏」研究ユニット『「再本質化」される親密圏と新たなシチズンシップ』, 2013 年, (印刷中).

学会・研究会報告等

1. ‘日本人のオーストラリア移住史への新たな視点:1980 年代から 90 年代初頭の移住者と JICA との関わりから’
「オーストラリア学会第 5 回地域研究会(関東)および多文化メディア市民研究会(東京藝術大学毛利嘉孝科研費研究会)、大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター、2012 年 12 月 22 日.
2. ‘Migrant Women’s Structural Differences: Reconsidering International Parental Child Abduction’. *The 19th Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia*, The University of Western Sydney, Parramatta, NSW, 11-13, June 2012.

研究助成金等

1. 2012 年度松下幸之助記念財団研究助成

研究課題:「国際結婚の破綻とグローバルな家族の離散を巡る諸問題—日本人女性の国際的な子どもの「連れ去り」の事例研究」、研究機関 2012 年 10 月

-2013年9月, 助成金額 50万円.

2. 2012年度次世代研究出版プロジェクト

研究代表者:濱野健(他9名)

研究課題:「交差する「親密圏」・つなぎ合う「公共圏」としてのフィールド:調査者と協力者、異なるポジショナリティ間の交渉の場からの考察」、研究期間 2012年5月-2013年3月、助成金額 30万円

以上